



みんなのできる 地球温暖化防止活動

― 防災士として、地球温暖化防止活動をしています!! ―

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■防災士

・ 阪神・淡路大震災の時は災害ボランティア活動ができたが、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故の時は、体調不良で何もできなかったと、橋本尚美さんは悔しそうに振り返ります。「災害や防災のことを体系的に学びたいと考え、防災士の資格を2014年に取得しました。」「令和元年東日本台風」(郡山に2019年10月12〜13日襲来)の時、郡山市水門町内で泥かきや後片付けの災害ボランティアをしました。「泥を見ずに人を見よ」が座右の銘です。被災者に寄り添い、その声に耳を傾けることが大切です。

■推進員になったきっかけ

水門町で災害ボランティアをしている時に、「昔と雨の降り方が違うね」という被災者の一言で、地球温暖化とすることによる気候変動の影響のことが頭をよぎったと言います。災害を防ぐためには、温暖化防止活動が大切だと考え、「福島県地球温暖化防止活動推

進員養成研修会を受講し、2025年4月に推進員になりました。」災害を防いだり減らすためには、その元となっている地球温暖化がこれ以上進まないようにすることが大切であることを、防災士仲間との勉強会などで説明していると言います。

■推進員との「ぺちゃぺちゃ」

橋本さんは、推進員さんたちとのオンラインぺちゃぺちゃに参加しました。「参加者の一人の家族の方が、福島県の環境アプリをダウンロードして使用したら、プレゼントが当たったよ、と言っていました。」そのことに、びっくりしたそうです。ぺちゃぺちゃでは、どのようにすれば、地球温暖化防止活動を県民のみなさん一人ひとりに自分事化してもらえるのか、そのアイデアをみんなで話し合っているとのこと。「くら寿司郡山ヨークパーク店には、ガチャガチャがあるのをご存知ですか。土に返せる素材を使用しているそうです。」橋本さんの言いたいことは、ありきたりでない発想が大切だということでした。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「昔は良さが分かりませんでした、自然豊かで人も温かい、地元の郡山市西田町が好きです。ハクビシンやキジ、キツネのような小動物に夜間遭遇しますよ。」「耳を澄ますと、地球の声も聞こえます。」

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>